

平成 30 年度 姉妹校等留学プログラム

バンクーバー姉妹校交流プログラム

(1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校／海外研修（2名）

(2) 渡航先

国/都市：カナダ/バンクーバー

外国の高校：David Thompson Secondary School

(3) 期間

平成 30 年 9 月 18 日～平成 30 年 9 月 25 日（8日間）

(4) プログラムの趣旨・目的

学問を広く深く学ぼうとする精神と態度を培いながら、潜在的な独創性を引き出し、日本の将来を支える論理的な思考力と鋭敏な感性を育み、世界で幅広く活躍する人間を育成するため、姉妹校交流を行う。

(5) 活動内容

- 異文化における体験や交流活動などを通して国際コミュニケーション能力を養うために、姉妹校生徒宅でのホームステイを実施した。
- 世界に通用するコミュニケーション力を育成し、日本文化及びY S F Hを世界に発信する力を養成するために、英語でプレゼンテーションを行った。
- 高度な英語運用能力を身に着けるために、姉妹校のデイビッド・トンプソン・セカンダリ・スクールに通学し、授業に参加した。国際的な問題（持続可能な発展）についてディスカッションを行った。

(6) 実績・成果

○派遣高校生 TSさん

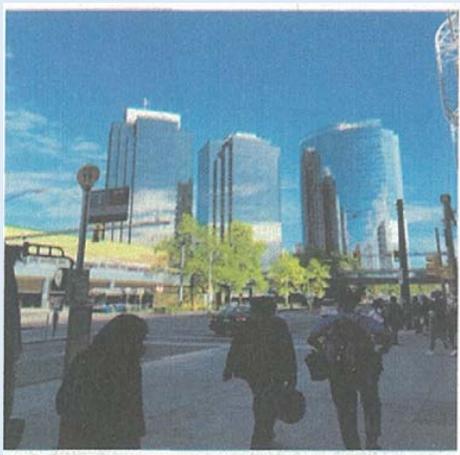
バンクーバーを訪問して、私は日本との違いを感じることができました。そして、事前学習や現地でプレゼンテーションを行うことによって自分の成長にも繋がりました。

7月下旬から9月にかけて約3か月間、事前学習を行いました。姉妹校で行うプレゼンテーションの準備には多くの時間を費やしました。日本の魅力を伝え、日本に興味を持ってもらうにはどうすればいいかということを考えながら作っていきました。私はクイズ班の班長だったので、パフォーマンスの吟味を班員と徹底しました。また、ダンスや合唱練習もほぼ毎回行い、特に合唱は音楽の先生を交えて練習することもありました。それらは完成に近づくにつれ自信に繋がりました。聴衆のことを考えて何かを発表したことは今後の自分の成長にも繋がると思いました。

もう1つは人の思いやりの心です。日本にも思いやりの心があるとは言われていますが、今回の交流プログラムでは別のものを感じました。日本の思いやりというルールにのっとりたものが多いと私は考えます。例えば優先席では席を譲ることや列にはきちんと並ぶということです。これらはとても良いことだと思いますが、バンクーバーではそのようなこともあることながら、様々な場面での思いやりを感じました。ドアは必ず開けておいてくれる人がいることや、いつも私たちが気にかけてくれたことなどです。さらに人と喋るときや一緒にいるときはスマートフォンをいじらないことなども素晴らしいことだと思いました。日本でもこの様に常に人のことを思いやることができればもっとより良い国になるのではないかと考えました。

2日間、姉妹校の生徒にバディとしてついてもらい授業体験・学校体験をしました。私は物理、美術、歴史、の授業を受けました。これらの体験を通して感じたのは、日本との違いについてでした。積極的に授業に参加していて、たくさんの量の宿題をこなしていて日本人も見習うべきだと感じました。また、授業の進め方も新しいと感じました。寝ている人は一人もいませんでした。特に印象的だったのは社会のテストで、第二次世界大戦のことについてB5用紙を埋めろというものでした。採点者は大変そうですが、より能動的に深く知っていないと解けないなと思いました。また、携帯やパソコンなどを授業中に使って調べることに関しても特にルールはないようでした。そして、様々な生徒がいて選択科目がたくさんありました。日本には無いようなダンス、心理学などの授業もありました。車で登校したり、バスで登校したり、徒歩で登校する生徒はいるものの、登校に30分以上かけている生徒は少ないように感じました。これらの体験から私は、授業を能動的に受けている姿勢や、日本と違い様々な新しい技術を取り入れているカナダの教育について学ぶことができました。

今回の経験をこれから高校や大学での学習の姿勢に生かしたいです。



市内散策



姉妹校の校内



市内散策

○派遣高校生 R I さん

私はバンクーバー姉妹校交流プログラムを終えて、本当にこのプログラムに参加して良かったと思いました。たくさんのことを学び、忘れられない思い出、そしてまた会いたいと思える友達ができ、とても良い経験でした。

バンクーバーを訪問して、特に印象に残ったことは色々な文化の混ざり合いです。事前学習で多民族国家であることは学んでいましたが、実際に行くと、様々な文化が混ざり合っていることを肌で感じることができました。カナダの公用語は英語とフランス語なので、お菓子のパッケージなどあらゆるものに二つの言語が書かれていました。私のホストシスターは中国語が話せて、両親とは英語だけでなく中国語でも話していました。私は中国語が全く分からないので少し戸惑いましたが、二つの言語が家族の中で話されているというのは私にとって新鮮でおもしろかったです。また、ほかの仲良くなった子は四か国語も話せると言っていて驚きました。そして特に驚いたのはその子も私のホストファミリーの子も第一言語は英語ではなかったということです。そのため、小学生の時に特別な英語の授業を受けると言っていました。二人とも普通に英語を話しているのでとても驚きました。私は公用語が日本語だけの日本で生まれた時から日本語を話していて、その言語で生活しているので、想像があまりつかなくて衝撃でした。

また、姉妹校での日本の学校生活や文化についてのプレゼンテーションも印象に残っています。今回のプレゼンテーションでは実際のサイエンス生の日についてや、和紙と歌舞伎などの日本の伝統的な文化などを紹介し、日本についてのクイズを出しました。ソーラン節のパフォーマンスと「花は咲く」の合唱も行いました。この発表は事前学習の中で一番時間をかけて準備してきたものだったのですが、実際に見に来てくれた姉妹校の生徒達を前にするととても緊張しました。本番では、笑顔を意識して、相手に伝わりやすいように心がけて発表することができ、発表の中では問いかけを多くして聴衆を巻き込むように盛り上げることができたと思います。ソーラン節は姉妹校の生徒達に楽しんでもらえたようでとてもうれしかったです。また、合唱は英語でも歌ったので一緒に歌うことができ、とても良い思い出ができました。今回のプレゼンテーションで日本について他の国で紹介する難しさ、そして楽しさを感じる事ができ、とても良い経験となりました。

研修に行く前にインターネットなどを使って調べた時よりも、実際に訪問して、話を聞いたり、感じたことで沢山のことを知ることができ、良かったです。8日間で、カナダの文化を学ぶだけでなく、日本の文化も伝えることができ、お互いに違うことや同じことを発見して会話を楽しむことができました。この様に現地の人から普段の生活について聞くことができるのはホームステイならではの、貴重な経験をしました。今回のプログラムで学んだことをこれからの学習、生活にいかします。